

# 非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

## 金

### 【海外】

#### 1. 価格推移

8 月相場	高値	安値
ロンドン相場 (\$/toz)	: 1,323.40 (29 日)	1,257.55 (7 日)
国内建値 (円/g)	: 4,662 (31 日)	4,495 (9 日)
為替相場 (円/\$、TTS)	: 109.81 (29 日)	111.77 (3 日)

8 月の海外金相場は 1 日に \$1,267.05/toz (トロイオンス) でスタート、初旬は目先の利益を確定するための売りや上場投資信託 (ETF) の保有残高の減少により続落、4 日発表の米雇用統計の改善も影響し、\$1,257 水準へ後退した。

しかし、第 2 週に入ると、7 月の米消費者物価指数の上昇率が市場予想を下回る結果となり、さらに北朝鮮情勢の緊迫化により安全資産の金取引が活性化したことで、11 日に \$1,288 水準と約 2 か月ぶりの高値となった。

その後、月半ばにかけては、やや落ち着いた動きを示したものの、米連邦準備理事会 (FRB) が 16 日公表した 7 月の米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事要旨で、一部のメンバーが追加利上げに慎重な「ハト派」の姿勢を示したことが買い材料となり、\$1,295 水準へ上昇、前年 11 月以来 9 か月ぶりの高値をつけた。しかし、18 日に米政権のバノン首席戦略官・上級顧問が解任され、それを受けて米株式相場が下げ渋ったことからその後は金に売りが出て価格水準をやや切り下げた。

ところが、月末には、25 日に米国で開かれた経済シンポジウムで、FRB のイエレン議長が米利上げ等の金融政策に言及しなかったことに加え、29 日には同日の北朝鮮のミサイル発射による地政学リスクの高まりで、現物資産の裏付けがあり比較的安とされる金に投資資金が集中、ドルが下落する中、\$1,323.40 まで急伸し、前年 9 月以来 11 か月ぶりの高値をつけた。その後 30、31 日とやや下げたが、31 日には \$1,311.75 と \$1,300 台を保って越月した。

#### 2. 為替相場推移

8 月の為替相場は 1 日に \$1=111.27 円 (TTS 相場、以下同じ) と円高基調を保ってスタート、初旬は発表された米経済指標が良くなかったことや米政権運営の先行き不安からドルが売られ、4 日には \$1=111.00 円と約 2 か月ぶりの円高・ドル安水準と

なった。その後、4日発表の米雇用統計の結果が予想よりも良かったため、7日に為替相場はドル高へ転換するに見えたが、すぐに北朝鮮情勢の緊迫化や米消費者物価指数の上昇率が市場予想を下回ったことによる米利上げ期待の沈静化等から円が対ドルで反発した。

中、下旬にかけても、主として北朝鮮リスクを背景にした買いが継続したことで、概ね\$1=110~111円と円高値圏で推移した。ところが、月末の28日には前週末のジャクソンホール会議でイエレンFRB議長が米金融政策に言及せず、政策の先行き不透明感から円買い・ドル売りが優勢となったことで円が買われ、さらには29日には北朝鮮のミサイル発射を受けてリスク回避の動きが鮮明になったことで円買いに拍車がかかり、\$1=109.81円と本年4月以来約4か月ぶりの円高値をつけた。しかし、31日には良好な米経済指標を受けて円が急反落、ほぼ月初水準と同じ\$1=111.42円をつけて越月した。

対ユーロでは、円は上、下旬、€1=130~132円の範囲内で小動きだったが、下旬に欧州中央銀行(ECB)のドラギ総裁が米ジャクソンホール会議の講演でユーロ高への懸念を示さなかったことで、€1=133.12円まで続落し、前年2月以来1年半ぶりの円安・ユーロ高となった。

## 【国内】

### 1. 建値推移

8月の国内金山元建値は1日に4,525円/g(グラム)とでスタート、上旬から盆休み前は海外相場高もあり4,500円台を概ねキープした。16日以降は円高基調もあったが、海外相場の上昇から4,500円台を割ることもなく、同水準をキープ、月末には海外相場の\$1,300台への急上昇から、4,600円台に到達した。31日には4,662円と月間最高値をつけるとともに、前年3月以来1年5か月ぶりの高値をつけて越月した。

### 2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2017年7月分=平成29年7月分)

生産	:	9,152 kg	(前月比 6.4%減、前年比 3.7%増)
出荷	:	8,748 kg	(前月比 12.2%減、前年比 9.9%増)
在庫	:	6,647 kg	(前月比 6.5%増、前年比 9.5%増)

(生産、出荷、在庫の出典は経産省生産動態統計調査)

7月の生産は前月比では3か月ぶりの減だが、前年同月比では6か月ぶりの増。出荷は前月の反動で減少するも、前年同月比では再び増。在庫は前月比増、前年同月比でも4か月連続の増。

## 銅

### 【海外】

2017年8月のLME銅相場は月初の\$6,300/t台から月末には2014年11月以来となる\$6,700台へと続伸した。米国経済の好調持続、中国やユーロ圏の景気回復の兆候などから市場心理が改善し、ベースメタルは全面高の展開となった。中国のサプライサイド改革、スクラップ輸入規制強化も需給タイト化要因とみなされた。

米国経済は第2四半期GDP改定値が個人消費と設備投資の底堅さを反映し、前期比3%/年増と速報値から上方修正された。7月の小売売上高が今年最大の伸び、8月のニューヨーク連銀(FRB)製造業景気指数(PMI)が2014年9月以来の高水準、新規失業保険申請件数は8月26日現在で130週間連続の300千件割れなど米国経済は引き続き好調。しかし、米公開市場委員会(FOMC)は追加利上げに慎重なことから、ドルは月末にかけて対ユーロで2014年12月以来となる\$1.20水準まで軟化した。

中国経済は第2四半期GDPが前期比横ばい、前年同期比6.9%と市場予想を僅かに上回った。今年前半の不動産投資や住宅投資は前年比増となり、8月の国家統計局製造業PMIは前月から上昇するなど健全な拡大が続いている。

ユーロ圏は第2四半期GDP改定値が上方修正され、失業率が2009年以来の低水準、景況感が10年ぶりの高水準など景気回復の勢いが加速し、欧州中央銀行(ECB)は資産買い入れプログラムの縮小開始に自信を強めている。

中国のサプライサイド改革との関連では、山東省が違法なアルミニウム生産能力削減を指示したとの報を受け、LMEアルミニウム相場が2014年12月以来の\$2,000乗せとなり、銅相場もその余波を受けた。

中国政府はまた、輸入廃棄物処理による環境汚染を取り締まる目的で、電線ケーブル、モーター、自動車部品などのスクラップの輸入を2019年初めに禁止すると発表した。これらのスクラップからの銅の回収量が減少し、精製銅需要が増加するとの見方から銅相場が上昇した。

供給障害要因としては、モパニカパーマインズが8月12日、電力供給が制限されたためムフリラ、ヌカナ銅鉱山(ザンビア)の操業を停止したと発表した。鉱山会社は電力料金の引き上げを拒否したため電力供給が制限され、裁判所に提訴した。ザンビアの電力供給は同国最大のカリバ・ダム水力発電所が干ばつに見舞われているため低下している。このため、政府は4月に電力料金を平均6¢/kWhから一律9.3¢に引き上げた。ファーストクワンタムミネラルズは電力料金の引き上げに同意したためカンサンシ銅鉱山製錬所 SXEW 工場とセンチネル鉱山への影響は回避された。

フリーポートマクモランのグラスベルグ銅鉱山(インドネシア)で8月15日、鉄砲水が発生し、作業員1名が行方不明となるとともに、広範囲にわたり停電に見舞われ

た。周辺の道路、橋梁、水道やテンバガプラ、ヒドゥンバレーへの送電線の大半が被害を受けた。また、同銅鉱山は8月19日、解雇された数百名の労働者により封鎖され、警官隊との衝突で少なくとも7名が負傷したが、21日に立ち入り制限が解除された。

グレンコアはパサール銅製錬所(比)を9月12日から26日までに定修閉鎖する。同製錬所は7月に発生した地震により発電所や送電線が被害を受けた影響で稼働率が80%にとどまっているといわれる。

需給動向については、国際銅研究会によれば、2017年1~5月の世界の銅鉱石生産は前年同期比2.8%減7,939千t、地金生産は横ばいの9,599千t、消費は2.8%減の9,585千t、この結果、地金需給バランスは前年同期の▲282千tから+14千tへと供給不足が解消した。報告在庫は15.7%増の1,497千t、在庫/消費比率は2.6週間から3.1週間へとやや上昇した。

鉱石生産の内訳は精鉱が2.5%減少、SXEWは4.5%減少した。国別にはチリがエスコンディーダ鉱山のストライキとコデルコの鉱石品位低下の影響で10%減少した。カナダとモンゴルは低品位鉱体へのシフトの影響でそれぞれ20%、21%減少した。インドネシアは1~4月の精鉱輸出禁止により14%減少した。米国は鉱石品位低下と年初の天候障害の影響で11%減少した。メキシコ、ペルーは鉱山の新設、増強によりそれぞれ11%、6%増加した。地域別にはアジアが1%、ヨーロッパが4%、オセアニアが7%増加、アメリカは6%、アフリカは4%減少した。鉱山稼働率は84.8%から79.0%に低下した。

地金生産の内訳は一次生産が2%減少、二次生産は12%増加した。二次生産はとくに中国のスクラップ供給の増加を背景に増加した。国別には中国が6.5%増加、メキシコはSXEW生産能力の増強により11%増加した。しかしながら、チリは電解、EW生産ともに減少し13.5%減少した。日本、米国も減少した。地域別にはアジアが4.5%、ヨーロッパは2.5%増加したが、アフリカは横ばい、アメリカは10.5%、オセアニアは8%減少した。精製工場の稼働率は85.7%から84.1%に低下した。

消費は中国を除く世界合計が0.5%増加したが、中国の見掛け消費の減少に相殺された。中国の見掛け消費(未報告在庫の増減を除外)は5.5%減少した。国内生産が6.5%増加したが、ネット輸入が30%減少したことによる。その他の主要国ではインド、日本が増加したが、米国、ドイツは減少した。地域別にはアフリカが3%、アジアは3%減少(中国を除くアジアは4.5%増加)、アメリカは0.5%、ヨーロッパは5%減少した。

## 【国内】

### 1. 建値推移(千円/t)

7/26 740      8/8 750      8/14 740      8/17 750      8/23 760      8/28 770

## 2. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2017年7月分=平成29年7月分)

生産 : 136,644t (前月比 6.3%増、前年比 1.1%増)

出荷 : 132,100t (前月比 1.1%増、前年比 4.7%減)

在庫 : 108,733t (前月比 5.2%増、前年比 10.5%増)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

平成29年(2017年)7月の銅地金生産は前月比6.3%増。前年同月比1.1%増の136.6千tとそれぞれ2か月ぶり、4か月ぶりの増加となった。出荷は前月比1.1%増、前年比4.7%減の132.1千tで、前月比2か月連続の増加、前年比は3か月連続の減少。内訳は内販が前月比3.3%増、前年比2.9%増の85.2千tで12か月連続の前年比増、輸出は前月比2.6%減、前年比15.9%減の46.9千tで前月比は2か月ぶり、前年比は3か月連続の減少。内販のうち電線向けは前年比1.3%増の51.9千t、伸銅品向けは同6.4%増の29.3千tと14か月連続の増加。在庫は前月比5.2%増、前年比10.5%増の108.7千tでそれぞれ2か月ぶり、2か月連続の増加となった。

## 3. 需要部門別動向

日本電線工業会によれば、平成29年(2017年)7月の銅電線出荷は前月比1.4%増、前年同月比3.3%増の58.5千t(推定)と5か月連続の前年比増となった。うち内需は前年比4.4%増の57.1千tと5か月連続の増加、輸出は27.2%減の1.4千tで再び減少。内需の部門別には、自動車が15か月連続、その他内需は9か月連続、建設電販は3か月連続の増加となった。一方、電力は11か月連続、通信は3か月ぶり、電気機械は2か月ぶりの減少となった。

日本伸銅協会によれば、平成29年(2017年)の伸銅品生産は前月比3.1%減、前年同月比7.4%増の70.5千t(速報)と前年比は12か月連続の増加となった。うち内需向けは前年比7.2%増の58.4千tで12か月連続、輸出は8.2%増の12.1千tで9か月連続の増加。品種別には、半導体、コネクタ、自動車端子向けの銅条が15か月連続、自動車端子向けの黄銅条は7か月連続、エアコン向けの銅管は5か月連続の増加となったが、コネクタ向けの青銅板条は11か月ぶりに減少に転じた。

鉛
---

## 【海外】

2017年8月のLME鉛相場は前月比一段高の\$2,300/t台をもみ合い推移した。17

には今年の最高値\$2,457/t を付けた。米国経済の好調持続、中国やユーロ圏の景気回復の兆候などから市場心理が改善し、ベースメタルは全面高の展開となった。

米国経済は第2四半期 GDP 改定値が前期比 3%/年増と速報値から上方修正された。個人消費と設備投資の底堅さを反映した。また、7月の小売売上高が今年最大の伸び、8月のニューヨーク連銀(FRB)製造業景気指数(PMI)が2014年9月以来の高水準、新規失業保険申請件数は8月26日現在で130週間連続の300千件割れなど米国経済は引き続き好調。しかし、米公開市場委員会(FOMC)は追加利上げに慎重なことから、ドルは月末にかけて対ユーロで2014年12月以来となる\$1.20水準まで軟化した。

中国経済は第2四半期 GDP が前期比横ばい、前年同期比 6.9%と市場予想を僅かに上回った。今年前半の不動産投資や住宅投資は前年比増となり、8月の国家統計局製造業 PMI は前月から上昇するなど健全な拡大が続いている。

ユーロ圏は第2四半期 GDP 改定値が上方修正され、失業率が2009年以来の低水準、景況感が10年ぶりの高水準など景気回復の勢いが加速し、欧州中央銀行(ECB)は資産買い入れプログラムの縮小開始に自信を強めている。

供給障害要因としては、国連安全保障委員会が8月5日、北朝鮮への経済制裁として石炭、鉄鉱石、鉄鋼、鉛精鉱、海産物などの輸入禁止を決議した。加盟国は30日以内に輸入禁止を実施しなければならない。北朝鮮の鉛精鉱は中国の輸入の約10%を占めるため、中国の鉛地金生産への影響が予想される。

中国環境保護部は8月7日から1か月間の予定で、四川省をはじめ亜鉛の主要生産地を対象に環境査察を実施した。このため、四川省の鉛亜鉛鉱山の約60%が操業を停止した。

テックリソーシズのトレイル鉛亜鉛製錬所(加)労組は7月27日、新労働協約案を批准した。労使は6月初めから仲裁調停の下で交渉を継続していた。新協約は6月1日に遡及して発効し、有効期限は2022年5月までの5年間。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2017年1~6月の世界の鉛鉱石生産は前年同期比11.7%増の2,574千t、地金生産は7.8%増の5,934千t、消費は10.0%増の6,020千t、地金需給バランスは前年同期の+28千tから▲86千tへと供給不足に転じた。

鉱石生産はアジアが24.3%、ヨーロッパは6.8%、アフリカは2.0%増加、アメリカは横ばい、オセアニアは24.6%減少した。国別には中国、インド、カザフスタンの増加がオーストラリアの減少を相殺した。地金生産はアジアが9.9%、アメリカは9.1%、アフリカは12.2%増加、ヨーロッパ横ばい、オセアニアは9.0%減少した。国別には中国、インド、韓国、米国が増加した。消費はアジアが11.1%、アメリカは14.0%、ヨーロッパは2.0%増加、アフリカは3.8%、オセアニアは11.1%減少した。国別には米国が輸入の急増で増加、中国も増加した。6月末の地金の報告在庫は前年同月比2.0%減

の 489 千t、在庫/消費比率は 2.3 週間から 2.1 週間に低下した。

中国は鉱石生産が 21.4%増の 1,372 千t、鉛精鉱輸入は 6.1%減の 341 千t、地金生産は 10.9%増の 2,526 千t、地金の輸出入は 13 千tのネット輸出から 52 千tのネット輸入に転じた。この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫)は 13.3%増の 2,546 千tとなった。

## 【国内】

### 1. 建値推移(千円/t)

7/3 314    7/11 319    7/25 305    8/1 314    8/8 320

8 月は LME 鉛相場が概ね \$2,300/t 台で推移したことから、鉛建値もほぼ 320 千円/t で推移した。

### 2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2017 年 7 月分=平成 29 年 7 月分)

生産 : 17,509t (前月比 3.2%増、前年比 2.8%増)

出荷 : 17,342t (前月比 7.4%減、前年比 0.7%増)

在庫 : 8,165t (前月比 0.6%増、前年比 67.0%減)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

7 月の生産は前月比増、前年同月比も 2 か月連続の増。出荷は蓄電池向け販売の減から前月比減だが、前年同月比は 7 か月連続の増と堅調さを保持。在庫は前月比微増だが、前年同月比は 22 か月連続の減。

### 3. 需要部門動向

7 月の自動車生産台数は前年同月比 1.4%増の 818,253 台となり(速報値)、9 か月連続で前年同月を上回った。乗用車は前年同月比 9 か月連続でプラスだが、トラックは同 3 か月連続のマイナス、バスも同 3 か月連続のマイナス。

7 月の自動車輸出台数は前年同月比 0.7%減の 410,676 台となり、6 か月ぶりに前年同月を下回った。

一方、7 月の二輪車生産台数は前年同月比 34.4%増の 47,267 台と 10 か月連続で前年同月を上回った。

(一社)電池工業会の調査によると、6 月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、輸出用を併せた総合計で 1,928 千個(前年同月比 8%増)と 8 か月連続で増加、自動車用以外の鉛蓄電池も 656 千個(同 6%増)とこちらも 5 か月連続で上昇した。その結果、鉛蓄電池の出荷はトータルで 2,584 千個(同 7%増)と 9 か月連続で増加した。

鉛関連製品生産統計

		6 月	7 月(速報値)
自動車	数量(台)	859,749	818,253
	前年同月比(%)	106.9	101.4
		5 月	6 月
自動車用鉛蓄電池	数量(鉛量t)	13,435	17,178
	前年同月比(%)	113.6	105.0

(出所:(一社)日本自動車工業会, 経済産業省生産動態統計調査)

亜鉛

【海外】

2017年8月のLME亜鉛相場は月初の\$2,700/t台から月半ばには2007年10月以来となる\$3,000/t台に乗せ、その後月末にかけて\$3,100台で堅調に推移した。米国経済の好調持続、中国やユーロ圏の景気回復の兆候などから市場心理が改善し、ベースメタルは全面高の展開となった。中国の環境査察に伴う鉱山閉鎖も材料視された。

米国経済は第2四半期GDP改定値が前期比3%/年増と速報値から上方修正された。個人消費と設備投資の底堅さを反映した。また、7月の小売売上高が今年最大の伸び、8月のニューヨーク連銀(FRB)製造業景気指数(PMI)が2014年9月以来の高水準、新規失業保険申請件数は8月26日現在で130週間連続の300千件割れなど米国経済は引き続き好調。しかし、米公開市場委員会(FOMC)は追加利上げに慎重なことから、ドルは月末にかけて対ユーロで2014年12月以来となる\$1.20水準まで軟化した。

中国経済は第2四半期GDPが前期比横ばい、前年同期比6.9%と市場予想を僅かに上回った。今年前半の不動産投資や住宅投資は前年比増となり、8月の国家統計局製造業PMIは前月から上昇するなど健全な拡大が続いている。

ユーロ圏は第2四半期GDP改定値が上方修正され、失業率が2009年以来の低水準、景況感が10年ぶりの高水準など景気回復の勢いが加速し、欧州中央銀行(ECB)は資産買い入れプログラムの縮小開始に自信を強めている。

中国のサプライサイド改革との関連では、山東省が違法なアルミニウム生産能力削減を指示したとの報を受け、LMEアルミニウム相場が2014年12月以来の\$2,000乗せとなり、銅相場もその余波を受けた。



供給障害要因としては、パデンインダストリーズパブリックが8月3日、ターク亜鉛製錬所(タイ)の生産を停止したことを確認した。昨年、メソッド鉱山の鉱量枯渇に伴い2017年第2四半期に閉鎖する計画を発表していた。当面、再開する計画はない。

中国環境保護部は8月7日から1か月間の予定で、四川省をはじめ亜鉛の主要生産地を対象に環境査察を実施した。このため、四川省の鉛亜鉛鉱山の約60%が操業を停止した。

テックリソーシズのトレイル鉛亜鉛製錬所(加)労組は7月27日、新労働協約案を批准した。労使は6月初めから仲裁調停の下で交渉を継続していた。新協約は6月1日に遡及して発効し、有効期限は2022年5月までの5年間。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2017年1~6月の世界の鉛鉱石生産は前年同期比11.7%増の2,574千t、地金生産は7.8%増の5,934千t、消費は10.0%増の6,020千t、地金需給バランスは前年同期の+28千tから▲86千tへと供給不足に転じた。

鉱石生産はアジアが24.3%、ヨーロッパは6.8%、アフリカは2.0%増加、アメリカは横ばい、オセアニアは24.6%減少した。国別には中国、インド、カザフスタンの増加がオーストラリアの減少を相殺した。地金生産はアジアが9.9%、アメリカは9.1%、アフリカは12.2%増加、ヨーロッパ横ばい、オセアニアは9.0%減少した。国別には中国、インド、韓国、米国が増加した。消費はアジアが11.1%、アメリカは14.0%、ヨーロッパは2.0%増加、アフリカは3.8%、オセアニアは11.1%減少した。国別には米国が輸入の急増で増加、中国も増加した。6月末の地金の報告在庫は前年同月比2.0%減の489千t、在庫/消費比率は2.3週間から2.1週間に低下した。

中国は鉱石生産が21.4%増の1,372千t、鉛精鉱輸入は6.1%減の341千t、地金生産は10.9%増の2,526千t、地金の輸出入は13千tのネット輸出から52千tのネット輸入に転じた。この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫)は13.3%増の2,546千tとなった。

## 【国内】

### 1. 建値推移(千円/t)

7/3	361	7/7	364	7/12	370	7/18	367	7/21	349	7/26	367
8/1	355	8/7	358	8/10	373	8/17	388	8/28	385	9/1	394

8月はLME亜鉛相場が\$2,700/t水準から\$3,100台へと上昇したことで、亜鉛建値も388千円/tまで上昇した。月末近くで一旦下げるも、9月に入り394千円へ上方修正され、2007年以来の400千円台まであと一步というところまで迫っている。

### 2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2017年7月分=平成29年7月分)

生産 : 38,214t (前月比 10.0%減、前年比 0.4%増)

出荷 : 44,493t (前月比 1.7%増、前年比 0.1%増)

在庫 : 63,931t (前月比 7.0%減、前年比 22.9%減)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鋳業協会受払)

7月の生産は一部製錬所の定修から前月比減だが、前年同月比は6か月ぶりの増。出荷は内販の戻り基調から2か月連続の前月比増、前年同月比も2か月ぶりの増。在庫は出荷増から2か月連続の前月比減、前年同月比も6か月連続の減。

### 3. 需要部門動向

7月の鋳工業生産指数は前月比0.8%減、前年同月比4.7%増の101.5(季節調整済、2010年=100基準、速報値、以下同じ)となった。前月比は2か月ぶりの低下、前年同月比は9か月連続の上昇となった。汎用・生産用・業務用機械工業で半導体製造装置やタービン類の生産が減少したほか、電気機械工業でも発電関連設備などが振るわなかった。経産省は生産の基調判断を「持ち直しの動き」に据え置いた。

7月の生産指数は15業種のうち11業種が前月から低下した。汎用・生産用・業務用機械工業が前月比2.5%低下したほか、電気機械工業が同2.9%、化学工業が同1.4%それぞれ低下した。

7月の出荷指数は前月比0.7%減の100.0と2か月ぶりにマイナスだが、前年同月比は4.1%増と9か月連続の増となった。

一方、在庫指数は前月比1.2%減の107.8と2か月連続で低下したが、在庫率指数は前月比2.4%増の113.1と3か月ぶりに上昇した。

大企業の生産見通しを示す製造工業生産予測指数では、8月が前月比6.0%の上昇、9月は同3.1%の低下を見込んでいる。

6月の亜鉛めっき鋼板生産(次工程用消費を除く)は8か月連続で前年同月比プラスとなったが、数量は33か月連続で100万台割れ。

6月の伸銅品生産量は72,815t(確報値、対前年同月比+6.3%)(対前月比+9.5%)、2016年(平成28年)8月から11か月連続の対前年同月比プラス。6月としては2011年(平成23年)(73,171t)以来の高水準となった。銅条・管・棒、黄銅条・棒、青銅板条・棒線、洋白その他板条・棒線が対前年比プラスとなった。銅条は14か月連続の対前年比プラス。銅管は4か月連続の対前年比プラス。黄銅棒は14か月連続の対前年比プラス。銅棒は2か月振りの対前年比プラスとなった。

内需向け60,111t、11か月連続の対前年比プラス(+5.8%)。輸出向け12,704t、8か月連続の対前年比プラス(+9.9%)。

黄銅製品では、黄銅条が9,361t(対前年比+7.1%)と6か月連続のプラス。黄銅棒は17,251t、14か月連続の対前年比プラスとなった(対前年比+8.8%)。

亜鉛関連製品生産統計

		5月	6月
亜鉛めっき鋼板	数量(t)	890,197	871,688
	前年同月比(%)	106.5	106.7
黄銅製品	数量(t)	27,174	30,513
	前年同月比(%)	104.2	106.3
亜鉛ダイカスト	数量(t)	1,510	1,772
	前年同月比(%)	109.4	111.2
亜鉛華	数量(t)	5,112	4,877
	前年同月比(%)	123.2	93.3

(出所:経済産業省生産動態統計調査)